

移入種としての利尻島未記録のイチリンソウ属 2 種 (キンポウゲ科)

佐藤雅彦

〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Two Unrecorded Anemone's Flowers (Family Ranunculaceae) from Rishiri Island as Alien Species

Masahiko SARO

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. Two anemone's flowers, *Anemone pseudo-altaica* and *A. raddeana*, are newly recorded from Rishiri Island. Both species seem to be introduced from other places because the distribution of both species in this island is extremely restricted, and despite many previous expeditions, they have only recently been found.

イチリンソウ属 *Anemone* に属するこれまで利尻島から記録がない 2 種, キクザキイチゲ *A. pseudo-altaica* とアズマイチゲ *A. raddeana* が金崎地区および湾内地区からそれぞれ発見されたので報告する。早春に開花する植物であるため植生調査などからこれまで記録が漏れてきた可能性はあるものの, 両種がこれまでの度重なる植物調査にも関わらず近年になって初めて発見されたことや (館脇, 1941; 松野, 1984), 分布が極めて限られ, その場所も人為的な影響がはいった場所であることなどの理由から, 自生種として考えるのは現時点では難しく, 島外からなんらかの形で持ち込まれた移入種と考えるのが妥当と考えられた。今後, 両種の分布域が島内に広がる可能性もあるため, その分布の詳細も含め以下に記録を留めることとした。

須藤平助氏 (利尻富士町) には金崎地区の昔について, 村上将示郎氏・小松和恵氏 (利尻富士町), 佐藤里恵氏 (利尻町) からは島内のアズマイチゲの分布について教えていただいた。また両種の道北北部における分布については疋田英子氏 (稚内市), 村山良子氏 (枝幸町) に情報を提供していただい

た。五十嵐博氏 (北海道野生植物研究所) には原稿の校閲と詳細な道内における分布ならびにその移入の可能性についてご検討いただき, 貴重なご意見をいただいた。これらの方々から心からお礼を申し上げます。

1. キクザキイチゲ *A. pseudo-altaica* (図 1-2)

筆者が最初にこの花に気付いたのは 2002 年の 4 月であった。花期は 4 月下旬から 5 月上旬までで, 利尻富士町鬼脇字金崎の集落の中にある小さな林 (北緯 45° 07'36" 東経 141° 17'48") の林床に大きな群落 1 つとその周辺に少数の株がいくつか分散しているのを確認した。大きな群落は約 1m × 2m ほどのもので, およそ 200 ほどの開花株がみられ, 茎葉の小葉は深く切れ込み, 萼片は長楕円形で 8~9 枚であることから, キクザキイチゲと判断した。この林にはイタヤカエデ, ヤマグワ, ノリウツギなどの自生種のほか, ドクダミやヒメリンゴ, セイヨウミザクラと思われる植栽した植物などもいくつか見られた。



Figures 1-2. *A. pseudo-altaica*. 1. A view of a growth area at Kanazaki. 2. Many flowers covered on the forest floor.

本種の北海道内の分布については『北海道西部、特に西南部に集中する傾向』を五十嵐（2002）が指摘しており、宗谷管内からの記録は皆無である。さらに利尻富士町鬼脇宇金崎に住む須藤平助氏に伺ったところ、発見場所にはかつて民家があったことを教えていただいた。

道北北部における自生地が確認されていないことや民家の跡地であることから、今回発見されたキクザキイチゲはその民家の庭に植栽されていたもの、または庭木の移植などに混じり現在まで残ったものと考えられた。

2. アズマイチゲ *A. raddeana* (図 3-4)

2007年4月28日、村上将示郎氏（鬼脇）が利尻富士町鴛泊字湾内の姫沼への車道脇の林床に見

かけぬ白い花が開花しているのを見つけ、その後、筆者に連絡が寄せられた。翌々日に現場（図 5-1）に行き確認してみたところ、萼片を14枚持ったイチリンソウ属の花で、茎葉の小葉は羽状に切れ込まず、やわらかく垂れるなどの特徴からアズマイチゲと判断された。株の多くは4-5cmの高さで、80cm×50cmの中に約90株があり、開花しているのは1株のみであった。現場は標高50mのオモベツ川の下流にあたる小さな堰堤が入った開けた河畔林で、ミヤマハンノキ、オノエヤナギ、キハダ、ダケカンバ、イタヤカエデなどが生え、林床にはサイハイラン、ナニワズ、シヤク、オオウバユリ、ミミコウモリ、ザゼンソウなどが見られた。

北海道におけるアズマイチゲの分布については、宗谷・留萌管内では下幌別（枝幸町）、小頓別（中頓別町）、雄信内（幌延町）以南からの記録のみで、



Figures 3-4. *A. raddeana*. 3. A view of growth area at Wan-nai. 4. One flower of *A. raddeana* near a small stream.

北緯45度以北からはこれまで報告がなかった(五十嵐, 1997, 2002). しかし, その後, 五十嵐博氏(北海道野生植物研究所), 疋田英子氏(稚内市), 村山良子氏(枝幸町)の調査によると, 豊富町内の車道沿いの法面に見られる群落や上猿払の車道付近の原野などに点在する大きな群落が近年新たに確認されているという(五十嵐, 未発表). 村山氏によれば, 枝幸町においては徳志別川や北見幌別川などに代表される河川氾濫による湿地に昔から普通に見られていたため, 酪農による草地開発などの人為的な影響が原野に大きく及んできたものの, 放棄された草地

にこれらの自生種が再び再生することもあり, 新たに見つかった上猿払の群落は自生の可能性が高いと考えているとのことであった. その一方で, 車道脇の法面に広がる豊富町の群落は張り芝などに種子が混じるなど人為的な分布の可能性も考えられるとの見解であり, 五十嵐氏の私信でも土砂移動などにアズマイチゲの根茎が混じる可能性が指摘されていた.

アズマイチゲが発見された利尻富士町湾内地区は島内では独特の生物相を呈する場所であり, 固有種や島内でも本地域のみに分布が限られる生物が見ら

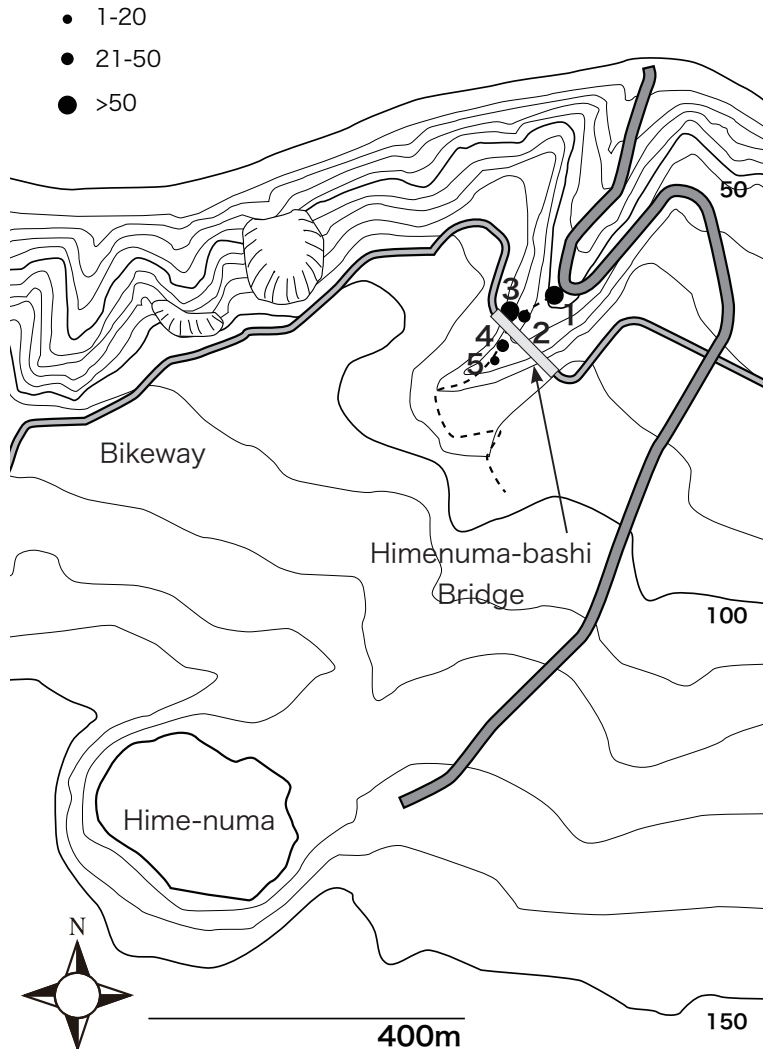


Figure 5. Distributions of *A. raddeana* at Wannnai, Rishiri Island.

れる(川井, 1993; 石田, 2000; 丹羽, 私信). これは大規模な溶岩流によって覆われることがなかったなどの地史的な要因と, 豊富な水資源を持つことによるものと考えられ, 島内のアズマイチゲが湾内地域にのみ自生していたとしても決して不思議ではない. そこでアズマイチゲの群落周辺地域にどのように分布しているのかを確認するために, 発見場所であるオモベツ川の上流部と本河川の西に位置するモトリアウシナイ川を踏査した. 両河川の踏査は同年5月1日および5月10日に実施され, 発見されたアズマイチゲの地点を図5に示した. オモベツ川では最初の発見場所を含め合計5か所(図5-1~5)に7株~約150株の群落を確認することができた. 群落として最も大きかったのは地点3(図5-3)で, 群落の分布は「姫沼橋」付近から下流側に限られていた. オモベツ川では最後のアズマイチゲの群落が見られた地点5(図5-5)と同様の環境が上流部にしばらく続くが新たな群落が見つかることはなく, 谷の付け根に到達した後, 急激に谷の幅が狭くなり環境が大きく変化する. モトリアウシナイ川については「富士見大橋」を越える上流部まで踏査したが, アズマイチゲを発見することはできなかった. なお「姫沼橋」と「富士見大橋」は, 1987~1997年にかけて設置されたサイクリングロードのために両河川に架けられた大規模な橋のうちの2つであり, 橋を支える橋脚が河川を含む谷の両側に設置されている. これら橋の設置のほか, 古い堰堤もいくつか見られるため, 両河川には人為的な攪乱が過去に何度か入っていたことは明らかであった.

以上, 道北地域および島内の分布状況からでは本種が自生かどうかの決定的な判断はつきかねた. しかし, リシリアザミやリシリハタザオのように近年になって利尻島より新種記載される植物があるものの, 島内外の多くの植物学者や愛好家が昔から踏査

している利尻島内において, 道内に広く分布するアズマイチゲの発見がなされなかったことはやはり不思議としか言いようがない. 現在の私たちが発見できずにいるニリンソウの自生地さえ見つけている過去の植物学者たちが本種を見逃す可能性はおそらく少なかったはずである. また, アズマイチゲの生息地と同様の環境が残されている「姫沼橋」上流部にその分布が見つからないこと, 「姫沼橋」の下流に大きな群落が集中すること, 隣のモトリアウシナイ川では分布が確認されないこと, などから, 「姫沼橋」などの建設による島外からの資材へのアズマイチゲの混入, 逸脱の可能性は大きいと筆者は考える. よって, 本報告では利尻島内でのアズマイチゲの分布についても移入種としての立場をとり, その詳細については今後の更なる分布調査や遺伝的特性の解析などを待ちたいと思う.

参考文献

- 五十嵐 博, 1997. 北海道のアネモネ属の分布特性(予報). ワイルドライフ・レポート, (17): 9-16.
- 五十嵐 博, 2002. No. 21. *Anemone* 属特集. 北海道野生植物研究所報告, 6(1): 1-6.
- 石田幸子, 2000. 利尻島に生息するプラナリア. 利尻研究, (19): 45-49.
- 川井唯史, 1993. 利尻島で初めて記録されたザリガニ *Cambaroides japonicus*. 利尻研究, (12): 9-10.
- 松野力蔵, 1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38 pp. 自刊.
- 館脇 操, 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農林学会報(34): 70-102.
- 梅沢 俊・村野道子, 1998. 北海道 春の花 絵とき検索表 II. エコネットワーク. 56 pp.